

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：普通作物管理技術の改良

小課題名：水稲におけるリアルタイム生育診断システムの開発

担当者名：上野直也、石井利幸、長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4	いろいろな品種について発育モデルの適合性を検討した成果は評価できるが、窒素吸収量の解析精度を向上させる必要があると思われる。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4	今後も継続して取り組んでもらいたいが、農家が気軽に使えるものになるための工夫が必要である。予測モデル式など理解しづらい部分が多い。
3 研究の発展性	4	全国展開の課題でもあり、地球温暖化対応などでも取り組みに期待する。
4 研究課題選定の妥当性	4	課題化の際に研究の新規性が問題となったが、成果として、山梨県版の生育モデルが出たことから、妥当な課題と評価できる。
総合評価	4	データの積み重ねで地域ごとの品種やそれらの栽培・管理法の確立につながり、秀品率の向上が期待できる。ホームページから運用できることを稲作農家等へPRする必要がある。JAなど農業団体での活用が本モデルの普及促進につながるとと思われる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

本成果が農家及びJA等で活用されるように、成果発表会や普及組織を通じ積極的にPRを行っていきたい。また、適用可能な品種を増やすとともに、収量や品質モデルについては温暖化対策を含め、他組織と連携しさらに検討を行いたい。

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：寒締めハウレンソウの栽培技術の確立

担当者名：赤池一彦、小澤明子、千野正章

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5	発芽率の向上や黄化症の問題等を解決した成果など達成度は高い。しかし、施肥の試験結果などが分かりにくい。また、土壌の砕土や散水が必要な気象条件などの目安を提示する必要がある。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4	冬場の収入源として、農家にとってはありがたい成果である。肥料代などコスト評価が普及上重要である。
3 研究の発展性	4	毎年新品種が出てくるので、何年かに一回、新品種の検討をしてもらえれば、生産現場ではありがたい。
4 研究課題選定の妥当性	5	研究上の新規性は高くないが、現場ニーズに対応した妥当な課題である。
総合評価	5	秋冬期の露地栽培で収益の上がる作目の技術がほぼ確立され、産地化やブランド化が期待できる成果として高く評価できる。しかし「ブランド化」のためには、他産ものと差別化できる品質特性や機能性等の解明研究が大切である。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

寒締めハウレンソウ生産者に、適品種の特性、発芽向上対策、施肥法などの成果を生産者に示すとともに、差別化に向けた品質特性等についてさらに検討していきたい。

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：高冷地における春まき夏秋どりタマネギの栽培技術の確立

担当者名：對木啓介、石川寛人、藤木俊也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4	春まきタマネギの栽培技術が研究期間を短縮して確立されたことは評価できる。「特色ある産地づくり」のためには、栽培農家の経営的利点を明らかにする必要がある。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4	秋播き栽培との比較や他作物と組み合わせ、春型栽培の利点などを労力分散や収益性などの視点から実証することが、本技術の普及には大切である。
3 研究の発展性	4	貯蔵中の腐敗の抑制方法は新たな研究課題であり、山梨独自の対策が期待される。
4 研究課題選定の妥当性	4	高冷地特有の限られた栽培条件での生産技術の確立課題は、これからの新規参入者や産直事業などの新たな販路拡大につながる。
総合評価	5	標高の高い地帯には有効な技術であり、他の野菜との組合せなどの体系づくりにも取り組むべきである。夏秋どりタマネギで農家の収益増加が確保できるかどうか、経営的評価が重要である。しかし、収穫期がずれることで、作付けの自由度が高まることは農家にとって大きな利点である。

「注」 評価点の目安

評価 点数	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

普及組織等と連携し、成果の普及を図るとともに、他品目との組み合わせにより、農家の収益向上が期待できるような作付モデル等についても検討したい。

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：環境保全型農業の確立

小課題名：野菜類の有機栽培技術の実証

担当者名：赤池一彦、小澤明子、石川寛人、對木啓介、長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5	アブラナ科野菜等の有機栽培法を実証・体系化し、地域によっては実用可能な技術であることを明らかにした成果を評価する。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4	病虫害の発生は地域ごとに異なることから、さらに多くの地点での実証が必要である。また、慣行栽培法との経営的比較評価が普及を促進すると思われる。
3 研究の発展性	4	県内の一般野菜生産農家にとっても有益となる色々な組み合わせの試験研究を継続してほしい。果菜類での展開に期待したい。
4 研究課題選定の妥当性	5	有機農産物への指向が高まる中、妥当な課題である。
総合評価	5	社会的ニーズに対応した課題として評価できる。更に継続して試験研究に取り組んでもらいたい。継続した取り組みが、有機農業の推進に役立つと考えられる。また、有機栽培の可能性を実証しつつ、研究上の新規性を出す努力も重要である。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

成果が有機農業の推進に向けた取り組みだけでなく、慣行の農業生産技術へも活用できるような試験研究への発展を検討し、試験研究における新規性の創出を図りたい。

< 様式 6 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善

小課題名：スズランエリカに発生する諸症状の原因究明と防除対策

担当者名：舟久保太一、山口優子

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5	根腐症、枝葉枯症及び葉枯症の各病原体及びスズランエリカにおけるそれぞれの発生生態を明らかにした。防除法の成果等は評価される。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4	生産現場では実際に底面給水が行われおり、こうした栽培管理の中での成果の実証が普及のかぎと思われる。また、農薬使用上の注意が肝要である。
3 研究の発展性	4	根腐病汚染株の根絶など、伝染源の管理法について更に取り組むべきである。
4 研究課題選定の妥当性	5	スズランエリカの安定生産のためには、重要な課題である。
総合評価	5	病原体の伝染環から想定して、防除が困難な病気であるが、被害の軽減に役立つ成果を得たことは評価される。この成果は、これ以外の植物にも応用できると思われる、更に研究の拡大が望まれる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

スズランエリカに発生する病害を明らかにしたが、引き続き病原菌の伝染経路等について検討したい。また、類似する病害防除への対策にも活用したい。

